

『アウトカム指標』とは

施策・事業の実施により発生する効果・成果(アウトカム)を表す指標

これまでは、事業を実施することによって直接発生した成果物・事業量(アウトプット)を表す指標を用いて施策や事業の評価を行うことが一般的でした。

例えば、「交通安全の推進」という施策を構成する「歩道の設置」という事業があるとするれば、「歩道を年度内に m設置する」というのがアウトプットであり、その成果として「交通事故件数が減少する」ということが「アウトカム」です。

「アウトカム指標」導入の背景

道路整備について、戦後一貫した着実な整備の結果、一定の量的ストックは形成されたという認識のもと、以前のような画一的な量的整備システムは、成熟型社会においては全ての地域にとって必ずしも最適なシステムではなくなってきたとされているところです。

そのうえで、慢性的な交通渋滞や多発する交通事故等、依然として課題は残っているため、国民の皆様の期待と整備効果との間にギャップが生じている等の課題を指摘し、道路サービスによる成果(アウトカム)を重視し、道路利用者が満足する道路行政に転換することが重要であると答申(社会資本整備審議会 中間答申(H14年8月))されたところです。